　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　未来世代礼拝　小学生（高）礼拝説教10月➀

復帰②ノア家庭｜ノア家庭にかけた神様の願い

　前回、カインがアベルを殺すことによって、アダム家庭の救いの摂理はなされなかったというお話をしました。今週は、「ノア家庭にかけた神様の願い」というタイトルでお話をします。

アダム家庭以降も、神様はずっと人間を救おうとされました。次はアダム家庭から1600年が経った10代目である「ノア」を選ばれて、ノアの家庭を中心とした救いの摂理の計画を立てられました。

一つ目は、ノアが神様に信仰を立てること、つまり「信仰基台」を立てることです。これは成功したのでしょうか？

聖書でも学びましたが、神様は、悪にあふれる世界をみて悲しみ、洪水を起こす計画を立てられました。神様はノアに「大きな船をつくって、あなたとあなたの家族と、すべての生き物の雄と雌を一組ずつその中に入れなさい」と言われ、ノアは、神様のみ言を固く信じ、ほかの人にからかわれても120年の間、精誠をこめて船をつくり続けました。そして船を完成させ、神様にささげる事ができました。よって、「信仰基台」を立てることができたのです。

二つ目の、「実体基台」はどうだったでしょうか？

信仰基台を立てたノアの子どもであるセムとハムが、カインとアベルの立場にいて、「実体基台」を立てなければなりませんでした。

　大きな船が完成してノア家庭と動物たちが乗ると、40日間洪水が続き、全世界を一掃しました。それから150日後に水が引き、ノア家庭は地上に降り立ちました。

　洪水審判の後、ノアはぶどう酒を飲んで酔っ払い、テントの中ではだかのまま眠っていました。そのときハムが、はだかのお父さんを見て、恥ずかしがり、そのことを外にいた兄弟たち（セムとヤペテ）に告げました。セムとヤペテは、見ないようにうしろ向きに歩み寄って、ノアの体を着物でおおいました。

なんと、子どもたちのこの行動によって、実体基台は失敗となってしまったのです。

　なぜ、ノアは洪水審判の後、はだかでテントの中に寝ていたのでしょうか？また、ハムがノアのはだかを見て恥ずかしがった行動が、なぜ罪になったのでしょうか？

神様は40日の洪水審判によって罪悪であふれてしまった人類を消し、ノアを「初めての人間」として立てて、救いをなそうとされました。

　信仰基台を立て、40日の洪水審判でサタンとの関係を断ち切ったノアは、言うなれば、罪を犯す前の「アダム」の立場です。なので、神様は、ノアがはだかのままでいても、家族がそれをはずかしがらず、隠そうとしない姿を見ようとされました。それは、エデンの園ではだかのままの純真なアダムとエバを見て喜ばれた時の心を取り戻すためでした。

ノア家庭は、アダム家庭に代わる家庭です。したがって、ノア家庭には、堕落する前のエデンの園を取り戻すべき責任がありました。ハムはノアと心情一体化したという条件として、ノアの裸の体をみてもはずかしがってはいけなかったのです。

しかしハムは、父であるノアと心情一体化ができずはずかしがってしまったため、サタンと関係を結び、神様の前に立てなくなってしまいました。それで、ノア家庭にもサタンが入ってくるようになってしまったのです。

まとめると、ノア家庭の救いの摂理において、信仰基台を立てる中心人物はノアでした。ノアは神様のみ言に絶対的にしたがって、信仰基台を立てることに成功し、使命を果たしました。

そして、ノアの二番目の息子であるハムは、アダム家庭の二番目の息子であるアベルに代わる立場の人物でした。ハムは、お父さんのはだかの姿を見ても、はずかしがってはいけなかったのです。しかしノアと心情一体化できず、ハムが恥ずかしがってしまったことによって、実体基台を立てることができず、ノアを中心とした救いの復帰摂理はなされませんでした。ですので、神様は再び新しく救いの摂理を準備されなければなりませんでした。

　ノア家庭の次は、アブラハム家庭を中心として、神様はもう一度人間を救おうと挑戦されます。そのお話は次回となります。